

# 黄金の道

# 秀衡街道



東の里宮久那斗神社が鎮座する多聞院伊澤家と中尊寺ハス(北上市)



平泉藤原氏の黄金文化を支えた鉱山群の一つ 鷲之巢金山跡(西和賀町)



秀衡街道のシンボルでもある「筏の大杉」。西の里宮筏隊山神社近くにある(横手市)



◎秀衡街道関係年表

西暦	年号	事項
一〇六二	康平五	◆安倍氏前九年の合戦で敗れる。清衡、母の再婚により清原氏の御曹司となる
一〇六三	康平六	◆清原武則鎮守府将軍となる
一〇八七	寛治一	◆鳥井山遺跡(後に清衡の命で復旧される)
一〇八九	寛治三	◆清衡陸奥守領となり江刺郡豊田館に住所
一一〇五	嘉保一	◆この頃、清衡豊田館より平泉に移る
一一二二	長治二	◆清衡、中尊寺の造営に着手
一一二六	保元三	◆中尊寺落慶供養を行う(中尊寺供養願文)
一一二六	天治三	◆この頃秀衡、和賀(北上市)の仙人峠に先祖の霊を仙人権現(現久那斗神社)として祀る(伝承)
一一五二	仁平一	◆仙人権現(現久那斗神社)として祀る(伝承)
一一七〇	嘉応二	◆秀衡鎮守府将軍に、一一八一年には陸奥守となる
一一八七	文治三	◆高橋子(清原氏)に、秀衡街道・果郷・黒沢が記される
一一八八	明治一	◆神仏分離令により仙人権現は久那斗神社と改称
一一八〇	明治十三	◆横手市内の秀衡街道、平和街道予定路線となるも地元の反対で変更される
一一八二	明治十五	◆平和街道開通
一一九三	大正十二	◆仙人峠の久那斗神社の社殿再建、一九三九年改築される
一一九四	大正十三	◆この頃まで果郷の秀衡街道、黒沢の当麻曼茶羅の参詣路として利用される
一九五五	昭和三十	◆旧山内村郷土史編纂委員会、秀衡街道現地調査を行う
一九八二	昭和五十六	◆多聞院伊澤家住宅・久那斗神社国指定重要文化財となる
一九九〇	平成二	◆北上市岩沢文化財愛護会設立される
一九九二	平成四	◆旧湯田町に秀衡街道探査会発足会員四十名、以降七年で町内秀衡街道二五キロをつなぐ
一九九五	平成七	◆秀衡街道湯田ダム水没の二キロ、国有林地内代替ルート仮承認を得る。二〇〇〇年新ルート成る
一九九七	平成九	◆鷲之巢金山跡で砂金採取体験を行う
一九九九	平成十一	◆旧湯田町秀衡街道パンプレット・学習下敷を作成
二〇〇一	平成十三	◆鷲之巢金山跡で砂金採取体験を行う
二〇〇二	平成十四	◆旧湯田町内二箇所(秀衡街道案内板を設置する町内の小中学校で講座を開く)
二〇〇五	平成十七	◆五月、中尊寺より多聞院伊澤家へ「中尊寺ハス」株分けされる
二〇〇六	平成十八	◆八月、相澤史郎氏「奥州・秀衡古道を歩く」を発売
二〇〇九	平成二十	◆岩手県立西和賀高等学校、秀衡街道現地学習を行う
二〇一〇	平成二十	◆横手市山内黒沢自治会、県境付近の草刈り作業をこの年から継続実施
二〇一〇	平成二十	◆二月、岩手・秋田県際交流事業実行委員会「黄金の道」秀衡街道フォーラムを横手市で開く
二〇一〇	平成二十	◆四月、中尊寺より横手市山内黒沢山神社へ「中尊寺ハス」株分けされる

## 秀衡街道のあらまし

平安時代末期、東北地方を治めていた平泉藤原三代秀衡と黄金文化にちなんで名づけられた「秀衡街道」が、岩手県北上市から西和賀町を経て、秋田県横手市まで数十kmにわたって今に息づいています。

秀衡街道は、奥羽山脈のほぼ中央部を、北上川支流の和賀川と雄物川支流の横手川が浸食した、その山あいの横断谷を縫うように結ばれています。

江戸時代中期、高橋子績が著した「澤内風土記」には、「果郷の一条は平易に同郡黒沢に通ずる也、かつてこれを秀衡街道と称す。」と記されています。いしへの秀衡街道は、西和賀町果郷から県境を抜けて横手市内黒沢へ通ずる平坦な道で、陸奥・出羽両国交流の主要路でありました。

この道の最大の難所である和賀の仙人峠に、藤原秀衡が仁平年間(二五〜五四)に、先祖の霊を仙人権現(現久那斗神社)として鎮座したと伝えられ、この神社の里宮が東西に勧請されています。

東の里宮は北上市和賀町岩沢の多聞院伊澤家(国指定重要文化財)の久那斗神社で、西の里宮は横手市内筏の筏隊山神社(筏の仙人様)です。

秀衡街道は、「黄金の道」とも称され、「たぬき掘り」の鷲之巢金山や畝倉山・明戸山などの金山跡、「秀衡掘り場」や「金商吉次の隠し金山」の伝承も残されています。

仙北の清原氏も金をたくさん持っていたと伝えられ、秀衡街道は黄金を運ぶ道でもありました。

樹齢千年の秋田県指定天然記念物「筏の大杉」、「全国森の巨人たち百選」に選ばれた仙人峠の「姥杉」などの神木も、この道のシンボルとなっています。

明治政府は殖産興業の一環として、平和街道(現国道一〇七号)を開削しました。その道筋は、秀衡街道の北側を切り開いて距離を短縮するコースでした。

平和街道の母体となった秀衡街道の所在を、岩手・秋田両県の先人達は、八百余年にわたって語り継ぎ、歴史と文化を今日に引き継いできました。